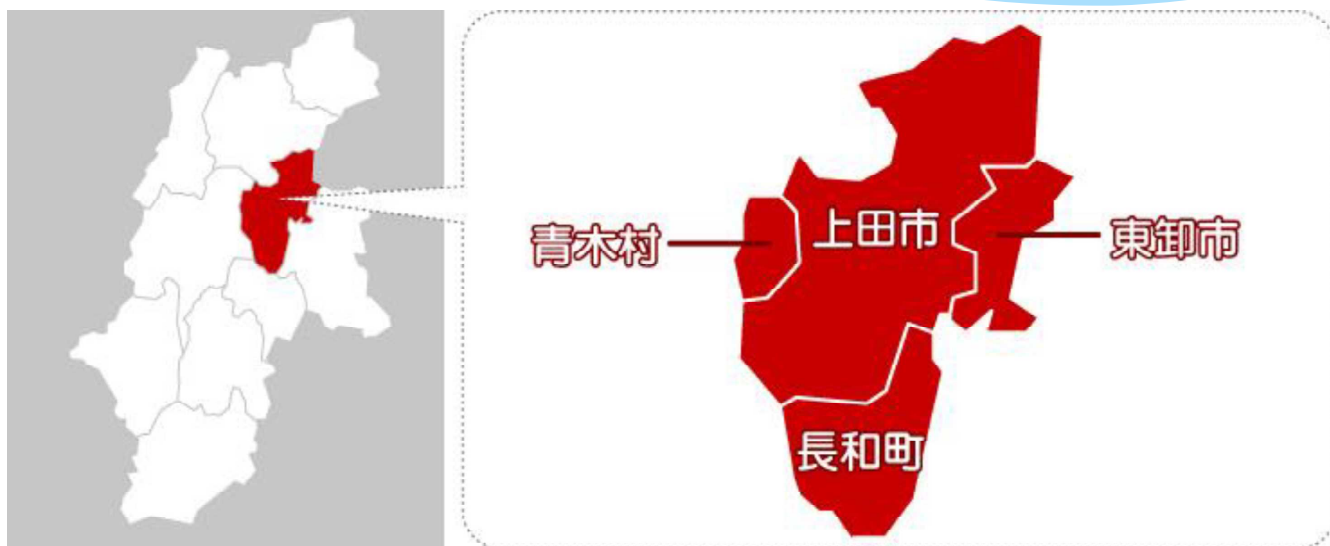


2019年度薬局の連携体制整備のための検討モデル事業 上田薬剤師会の取組みについて

令和2年2月3日
一般社団法人 上田薬剤師会

上田薬剤師会管轄地域



薬局：約100軒（会員薬局は約90軒）
会員数：約300人。

これまでの実績・継続事業

薬局覆面調査事業 H20年より

H23年度 医政局チーム医療実証事業

H24年度 医政局チーム医療普及推進事業

H22・23・24・28年度厚生労働省薬剤師生涯教育推進事業 薬剤師による軽医療マネージメント
市民公開講座（年2回開催）継続

25年度薬物療法提供体制強化事業 H25年11月 オーストラリアのHMR（在宅医薬品管理）
ワークショップ

調剤事例研究会（昭和49年8月17日より～平成28年11月で465回開催）

『毒物劇物取扱者試験準備講習会』（昭和45年～平成28年度 毎年開催 計47回開催）

病院診療所薬剤師研修会（昭和53年～平成28年11月17日 53回

学校薬剤師活動（薬物乱用啓発授業 昭和62年～、環境検査等）

看護学校講師、医療センター看護学校講師派遣

薬剤師による在宅医療の勉強会

ケアマネージャーに対する講演会

上田薬剤師会薬局群の特徴

	上田	全国
集中率80%以上薬局	6%	53%
平均処方箋集中率	33%	75%
平均備蓄調剤用医薬品数	1873	1038
平均備蓄GE医薬品数	521	315

全国平均データは、平成27年度老人保健健康増進等事業
「地域包括ケアシステムにおける薬局・薬剤師による薬学的管理の向上及び効率化のための調査研究事業」（みずほ情報総研）
および平成28年度診療報酬改定の結果検証に係る特別調査（平成29年度調査）医薬品の適正使用のための残薬、重複・多剤投薬の実態調査
並びにかかりつけ薬剤師・薬局の評価を含む調剤報酬改定の影響及び実施状況調査報告書

はじめに

○ 対象地域の課題

- ・当該地域は二次医療圏、世帯数 約84,000世帯
高齢者人口比率 29.3%※、年少人口比率 12.9%※ ※H27
- ・対象地域は、我が国の他地域と同様に少子高齢化が進んでおり、増加する要医療高齢者、要介護高齢者を地域の多職種が円滑に連携を取りながら支えていくことが喫緊の課題となっている。
- ・対象地域の特性として、地域住民のかかりつけ薬局への意識は他地域に比べて高く、当会と医療機関との連携も比較的円滑に行われている。ただし、介護職も含めたトータルな多職種連携についてはいまだ課題が多い。

○ 関係団体との連携

- ・当会が事業主体となり、全会員薬局（88薬局）が参加の他、会員外（15件）の調剤併設ドラッグストアなども参加予定。
- ・医師会や拠点病院、歯科医師会の推薦による医師・歯科医師、看護職、介護職を交えた検討会を設置し地域における本事業の進捗・成果を共有。（年4回程度）

1. 薬剤師による情報共有及び薬学的知見に基づく指導の強化のための仕組みづくり

薬剤が必要な服薬状況の把握や薬学的知見に基づく指導を医薬品の服用期間を通じて行うことを目的として、地域薬局の処方情報をクラウド上に集積し、服薬情報を一元的に把握し継続的なモニタリングを通じた服薬管理を行う。実証事業により抽出される課題を整理し、薬剤師の機能発揮が可能となる仕組みの構築を行う。

- ・ リアルタイムで集積したデータを分析し、薬学的エビデンスを処方医にフィードバック
- ・ 重複投薬、併用禁忌・相互作用防止、副作用の発見、残薬解消

⇒ システム名「服薬クラウドチェック」

事業参加依頼薬局数：104

調査協力薬局数：83

参加薬局数：56

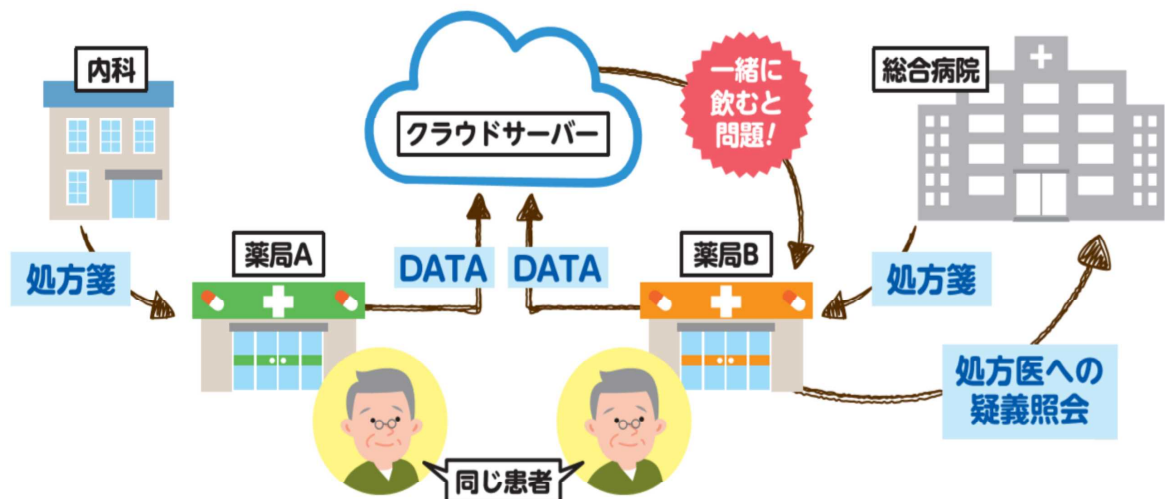
協賛：（一社）上田市医師会、（一社）小県医師会、（一社）上田小県歯科医師会

後援：上田市、青木村、東御市、長和町

協力企業：P H C（株）、（株）E Mシステムズ、東邦薬品（株）、（株）ズー

服薬クラウドチェック

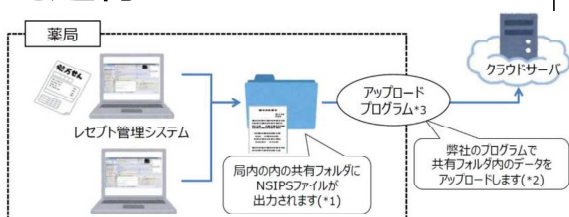
来局した患者の処方せんを受領した際、別の病院・薬局で調剤され服薬中の薬を把握しにくく、重複投与や併用禁忌などのリスクが潜んでいる可能性があります。クラウドサーバで地域調剤情報を一元管理し、当該患者のリスクを速やかに分析し、薬局にお知らせします。



服薬クラウドチェック

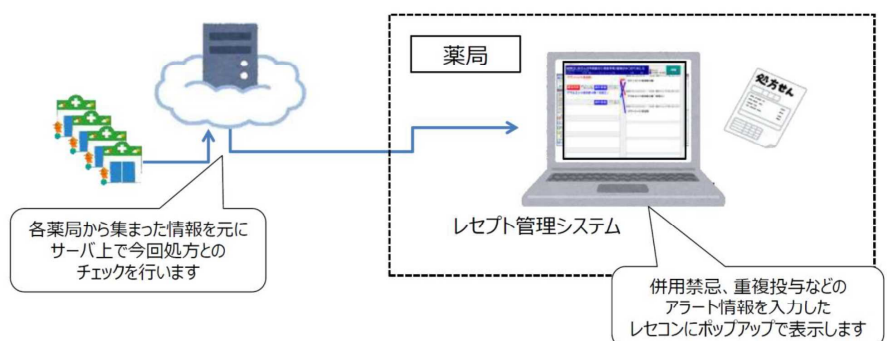
1. 薬局からクラウドサーバーへファイルを送付

薬局にて処方箋情報を入力すると同時に、レセコンから、患者氏名、処方された薬の内容の情報が出力され、クラウドサーバーにアップロード



2. サーバーでの薬のチェックを行い、薬局の PC にフィードバック

該当患者の各薬局から集められた服薬期間中の薬剤を元に、今回処方された薬との併用禁忌や重複投薬の状況をチェック
もし、リスク情報がある場合、各薬局のレセコンのパソコン上に警告メッセージを表示します。



- [illegible]

1.薬剤師による情報共有及び薬学的知見に基づく指導の強化のための仕組みづくり

12/16（月）12:00時点

登録薬局数：56件

同意取得患者人数：3,579人

取得処方せんデータ：6,878件

服薬クラウドチェックでアラート画面が表示された件数：1,553件

（処方修正時のアラートメッセージや、服用終了前に同じ薬を調剤した場合の成分重複などの件数も含まれます）

疑義発生事例に関するアンケート実施

これまでに、複数の医療機関から数種類の睡眠導入剤（レンドルミン、ハルシオン、マイスリー、ルネスタなど）が別々に処方され、それぞれ別の薬局で調剤されていた事例をはじめとして、重複、併用禁忌等の疑義発生事例の報告が上がってきている。

1.薬剤師による情報共有及び薬学的知見に基づく指導の強化のための仕組みづくり

本事業が成功した場合、隣接する広域から広げていくことを想定している。

また次年度以降は薬局間連携だけでなく、病院、診療所等の医療機関からクラウドデータを閲覧することも想定している。

今回連携する医薬品統合データベースは医療用医薬品とOTC医薬品の併用チェックも行えるため、将来的にはより適切な薬学的管理が可能になるものと考えている

2.地域における患者の療養生活を支えるための 薬局機能の強化

①患者の円滑な入退院を可能にするために、薬局と関連施設において多職間で効果的な情報共有ツールの作成・運用に係る実証事業の実施

- ・ 地域内医療機関等の入退院調整の現状の確認
- ・ 院外・院内の情報共有ツールの作成
- ・ 実証事業の対象患者のスクリーニング
- ・ 情報共有ツール等を用いた入退院時の試行

上小メディカルネット、ドクタージョイにて医療センター薬剤部と情報交換、医師へフィードバックの可能性の検討中⇒対象 外来化学療法中の患者

12.17 事業打合せ（外来化学療法等に係る情報共有の方法について）
12月 実態調査（薬局、ケアマネジャー、病院薬剤部・地域連携室）
1月 実態調査分析 ツール作成
2～3月 ツール運用

2.地域における患者の療養生活を支えるための 薬局機能の強化

②地域住民および他職種に対して薬局機能に関する情報共有や情報交換等の場を開催

- ・ 地方自治体や自治会と共催による講演会またはパネルディスカッション
- ・ 医師会をはじめとする職能団体との共催による多職種連携のためのワークショップ

11.16 市民公開講座

演題：地域包括ケアの構築・深化に向けた施策動向と関係者に期待される役割
－多職種・多主体による地域課題の解決に向けて－

講師：公立大学法人 埼玉県立大学研究開発センター教授 川越雅弘 氏

参加者：72名

アンケート回収：45名

3.高度な薬物療法を受けている患者に対する専門的な対応を実施するための薬局機能の強化

○がん等の薬物療法を受けている患者に対し、高度薬学管理機能を持つ薬局が地域において一定の役割を果たすため、薬剤師の高度薬物治療に関する知識の向上に向けた下記の取組を行う。

- 特殊な調剤を実施するために必要な薬局機能を明確にし、高度薬学管理機能を持つ薬局が地域においてどの程度必要なのかを調査。
- 今まで継続的に研修を積んでいる薬剤レビューの日本版テキスト及び研修カリキュラムを構築し研修会の開催。
- 構築されたテキスト等は公益社団法人日本薬剤師会、一般社団法人日本病院薬剤師会等への還元を目指して研修会を開催。

12.18	がん治療に関する研修会
1.26	薬剤レビューワークショップ（小田原）
2.23-24	薬剤レビューワークショップ（上田）
3.1	薬剤レビューワークショップ（仙台）

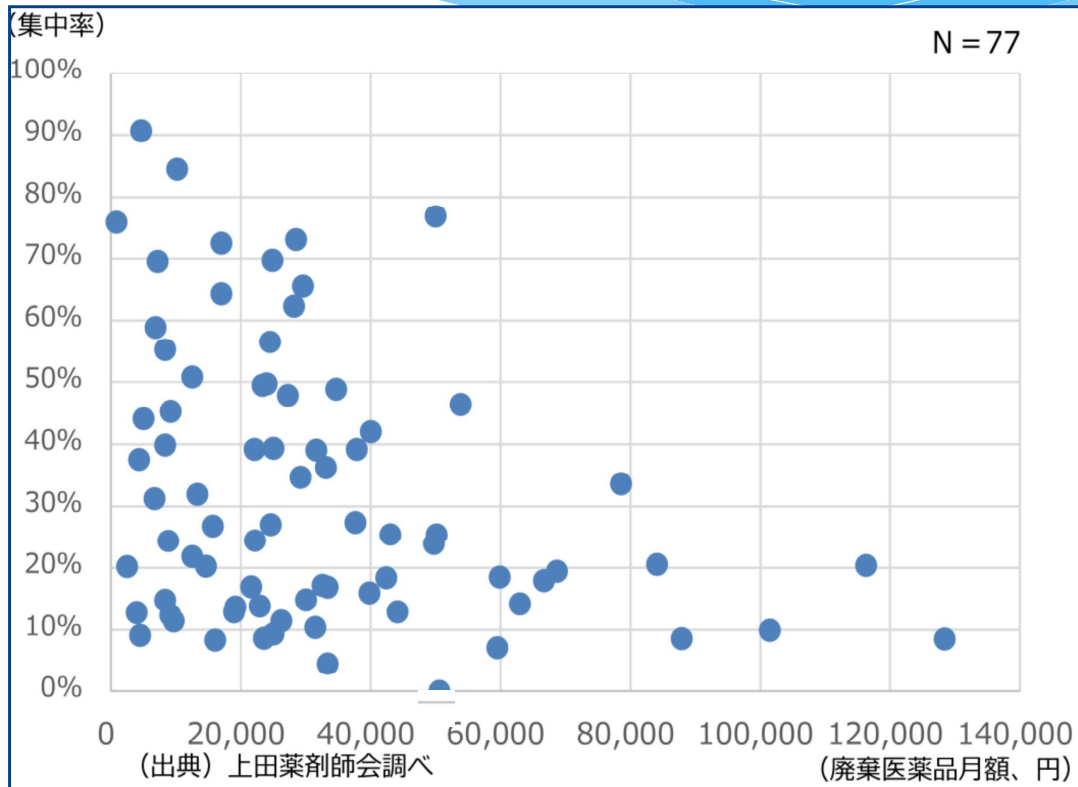
4.地域の薬局間における連携体制の構築

○医薬品等の供給を薬局間で連携して実施する体制を構築するなど、地域における医療提供施設たる薬局の在り方、薬局間での連携体制を検討する。

- 「１．薬剤師による情報提供及び薬学的知見に基づく指導の強化のための仕組みづくり」において構築するデータベースの分析に基づき、地域内における同一薬効群における使用薬剤リストを作成し、地域の医療機関や製薬メーカーにフィードバックを行い、地域フォーミュラリー（医薬品連携供給システム）作成のための検討の基礎資料とする。

11月～12月	医薬品連携供給システムに関する医薬品データ収集実施（対象：会員薬局）
1月	アンケート集計、推奨品選定
2月	推奨品選定、薬局への公表

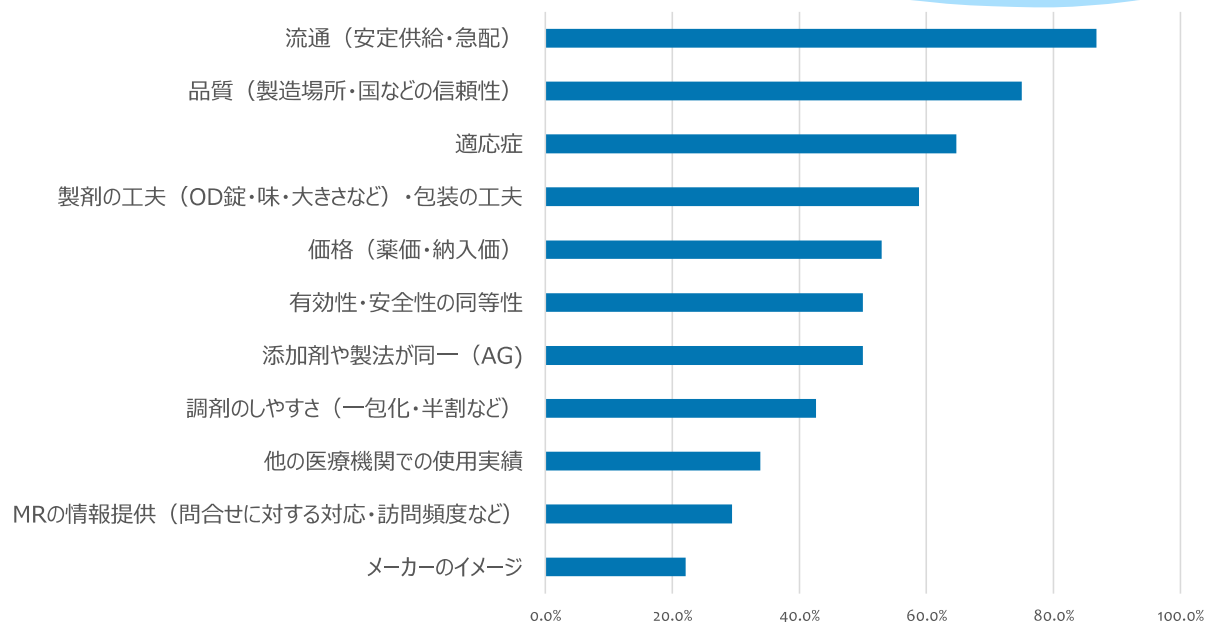
ジェネリック医薬品の選定の背景



$r = -0.312$

ジェネリック医薬品の選定の背景

GE医薬品の選定で重視する項目は？ (複数回答可)



平成30年上田薬剤師会実態調査より

更なるジェネリック医薬品の促進には、
『品質』がキーポイントになりそう

ジェネリック医薬品選定委員会

実際の流れ

- | | |
|----------|-----------------------|
| ・2月 | ジェネリック医薬品選定委員会の構想 |
| ・3月 | 構成メンバーの決定 |
| ・5月第1週 | 理事会にて了承／ジェネリック選定品目の決定 |
| ・5月11日 | ジェネリック選定のポイントについて会議 |
| ・5月第3～4週 | 選定品目のサンプル・情報収集 |
| ・6月上旬 | OD錠推奨品決定 |
| ・6月4日 | 会員薬局全体集会 |
| ・6月14日 | 普通錠推奨品決定・会員薬局へ比較データ発表 |
| ・6月15日 | 薬価収載 |

【委員】

薬剤師会役員、外部有識者（大学教授、製薬メーカー研究員）、上田薬剤師会検査センター職員

選定品目は、ペポタスチンベシル酸塩（普通錠・OD錠）に決定

情報源は、製剤見本、インタビューフォーム、添付文書、HP

ジェネリック医薬品選定委員会

製剤技術力

無包装状態の安定性試験
OD錠の易服用性(苦味軽減など)
製剤安定化（類縁物質、硬度、変色）
溶出挙動の一致具合
生物学的同等性試験のn数
有効期限
一包化・簡易懸濁の可否

安定供給

取り扱い卸が多い
セカンド原薬を採用
国内自社工場を保有する

包装

包装工夫（視認性・省スペース化など）
PTP包装やバラ包装の材質
小包装（100錠バラ）

上田薬剤師会推奨品

第一推奨品

第二推奨品

2018年6月収載品

ベポタスチンベシル酸塩錠	普通錠	「KN」(小林化工)	
	OD錠	「トーフ」(東和薬品)	「サワイ」(沢井製薬)

2018年12月収載品

トアラセット配合錠		「DSEP」(第一三共エスファ)	「サワイ」(沢井製薬)
			「EE」(エルメッド)

2019年6月収載品

シロドシン錠	普通錠	「KN」(小林化工)
	OD錠	「日新」(日新製薬)
ブロナンセリン錠		「アメル」(共和薬品)

保険薬局における医薬品品質保証素案(概念)

調剤室・調剤業務等の品質保証ガイドライン作成
薬剤師会がチェック・評価・ソリューション提案
→薬局のPDCAサイクルを円滑にするサポート

薬局

品質保証

医薬品

患者や薬剤師からの情報を基に、上田薬剤師会が改善が必要と思われる医薬品の情報収集・製薬メーカーへ情報還元・公表

GE医薬品の選定(上田薬剤師会の推奨品)

→会員薬局実態調査・患者満足度調査を行い、GEメーカーに還元・公表

→医薬品連携供給システム(地域フォーミュラリー)

薬局の施設基準・衛生基準を強化し、医薬品の品質を担保することで
住民から安心・信頼される薬局へ

服薬クラウドチェックまとめ

- クラウドサーバで地域調剤情報を一元管理し、当該患者のリスクを速やかに分析し、薬局にお知らせ
- 重複投薬、併用禁忌・相互作用防止、副作用の発見、残薬解消に寄与

→今後は

- 隣接する地域から広げていく。
- 薬局間連携だけでなく、病院、診療所等の医療機関からクラウドデータを閲覧することも想定
- 今回連携する医薬品統合データベースは医療用医薬品とOTC医薬品の併用チェックも行えるため、将来的にはより適切な薬学的管理が可能

さらに、
医療関係者の多職種連携のツール
地域で使用する医薬品の傾向について把握→医薬品フォーミュラーにつなげる